

審議会会議録

審議会等の名称	第1回 瑞穂市総合計画等評価審議会
開催日時	令和4年8月25日(木曜日) 午後6時00分から7時40分
開催場所	総合センター 5階 第4会議室
議題	「瑞穂市第2次総合計画」「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」にもとづく事業評価(令和3年度実施分)について
出席委員 欠席委員	<p>出席委員 12名 渡邊昭博副会長、小澤耕委員、加木屋加緒里委員、河合一恵委員、草野貴光委員、梶浦良子委員、高橋秀人委員、中林由紀子委員、福田公平委員、保坂秀樹委員、松尾治幸委員、吉田明貴子委員、</p> <p>欠席委員 3名 曾我部雄樹会長、林亜紀子委員、吉田敏之委員</p>
公開・非公開の区分 (非公開理由)	公 開 ・ 非 公 開
傍聴人数	0人
審議の概要	<p>市長あいさつ</p> <p>開 会 【事務局】 委員総数15名に対し過半数を超える12名の出席があり、瑞穂市附属機関設置条例第8条第1項に基づき会議が成立していることを宣言した。 会長が欠席のため、要綱第7条第4項に基づき副会長が職務の代理を務めることとした。 本会議について瑞穂市審議会等の設置、運営等に関する要綱第11条により原則公開すること、また第12条により当該審議会の傍聴を希望する者に傍聴を認めることを各委員に確認し了承を得た。</p> <p>委員自己紹介</p>

諮 問

【市長】

「瑞穂市第2次総合計画」にもとづく事業評価（令和3年度実施分）について、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもとづく事業評価（令和3年度実施分）について、及び「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」にもとづく事業評価（令和3年度実施分）について諮問した。

議事「瑞穂市第2次総合計画」、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」の令和3年度実績の評価について

【渡邊副会長】

事務局に対し評価方法について説明を求めた。

【事務局】

資料1及び資料2を用い、評価方法について説明を行った。

【渡邊副会長】

令和3年度に実施した事業について順に担当課に説明を求めた。

「汚水処理施設の整備」について

【渡邊副会長】

「汚水処理施設の整備」について担当課に説明を求めた。

【下水道課】

資料2を用い実施した事業について説明を行った。

【渡邊副会長】

担当課の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【松尾委員】

浄化槽の設置整備補助金について、浄化槽法で言うと合併浄化槽しかないが、新築住居にも出るのか。単独槽から合併の切り替えのみであるのか。このエリアの中では新築は出ていないのか。

【環境課】

新築の時、単独槽や汲み取りからの入れ替えの時も出る。ただし下水道区域には出ない。7年以内に下水道が見込まれる地域である牛牧の周辺では出ていない。

【草野委員】

この事業は令和2年度に開始し、最終は令和22年度であるか。

第2期は令和22年度で終わる予定であるのか。その時の目標値は、汚水処理人口普及率100%であるのか。

岐阜県の普及率平均は93.1%とあるが、それに対して最終目標値は何%を目指すのか。

【下水道課】

第一事業計画区域である本田団地と牛牧のJRから南側のエリアは、令和8年度末の供用開始を目指している。そのほかの区域に関してはその後順次拡大していくという計画である。

合併浄化槽と単独浄化槽があるが、汚染処理人口普及率には合併浄化槽のみ含まれるため、一部エリアの中で、公共下水道のエリアでないところに単独浄化槽が残っていれば100%にならない。

公共下水道のエリアではないところの単独槽に関しては、合併浄化槽に切り替えるということで合併浄化槽の補助金を出しているため、将来的には100%を目指している。

【渡邊副会長】

「汚水処理施設の整備」について委員に評価結果の挙手を求めた。

→有効であった10票、有効とは言えない1票
「目標達成に有効であった」にて決する。

「健（検）診体制の充実と医療費適正化の推進」について

【渡邊副会長】

「健（検）診体制の充実と医療費適正化」について担当課に説明を求めた。

【健康推進課】

資料2を用い実施した事業について説明を行った。

【渡邊副会長】

担当課の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【梶浦委員】

グッドライフ30分健康セミナーは平日だけ行っているのか。土日を開催したら参加者が増えると思うが。

【健康推進課】

以前は夜間も行っていたが、今はコロナ禍のため平日のみ行っている。午前中と午後、夜間と実施しているところがあるが、参加者は子育て世代が多いため、子どもが小学校や幼稚園等にいる午前中に参加する方が多い。今まで土日は実施したことがないため一度検討するが、現在参加者が多い特に午前中、午後で実施しようと考えている。

【加木屋委員】

グッドライフ健診は、7月の下旬から8月の下旬で実施されていたが、今年を例にとると8月の下旬はコロナが流行し、医療がひっ迫している状況であった。そのような状況の場合、医療や受診者のことを考慮し、期間を延長するなど何か方法は検討しているのか。

【健康推進課】

グッドライフ健診は7月、8月の2か月間であったが、特定健診については7月から9月の3か月間実施している。その状況を鑑みると、受診率向上のためにも健診の期間の延長について、もとず医師会の方と検討していきたい。

【松尾委員】

グッドライフ健診は若年層が対象者であり、社会保険の被保険者の人は事業所で健診を行うと考えられるが、対象者の把握はどのように行っているのか。

【健康推進課】

社会保険の対象者の把握は難しいため、把握までは行っていない。しかし、特に社会保険の扶養者の方については扶養健診についてご本人が知らない場合があるため、30代の女性の方には未受診対策として勧奨している。

【渡邊副会長】

「健（検）診体制の充実と医療費適正化の推進」について委員に評価結果の挙手を求めた。

→有効であった11票、有効とは言えない0票
「目標達成に有効であった」にて決する。

瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画「乳児用のインフルエンザ予防接種委託事業」について

【総合政策課長】

「乳幼児のインフルエンザ予防接種委託事業」について、本来は総合計画についての審議は必要ないものである。しかし、地域再生計画は今回の諮問の中で評価することになっており、企業版ふるさと納税をこの事業に充てたため、この事業を評価することに至った。

【渡邊副会長】

「乳児用のインフルエンザ予防接種委託事業」について担当課に説明を求めた。

【健康推進課長】

資料 2 を用い実施した事業について説明を行った。

【渡邊副会長】

担当課の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【福田委員】

乳児用のインフルエンザ予防接種の対象者が4千515人のうち、助成をしたのは1千673人で37.1%であるが、この数値をどう捉えているのか。またこの結果には何か原因があるのか。

【健康推進課】

令和3年度から始めたため、数値をどのように捉えればよいのか分析できていない。この予防接種は任意接種であり、市内の医療機関に限っている。今後、インフルエンザ予防接種の周知を行っていきたい。

【梶浦委員】

なぜこの事業の目標指数は、住みやすさの評価、居住意向の数値となっているのか。この数値がインフルエンザの数値とどのように関連しているのか。この事業に関しての目標指数を出すのは難しいのか。

【総合政策課】

目標指数である住みやすさ評価や居住意向については、毎年市民の方1千人に対してアンケートを取っているがその中に含まれている。毎年同じ質問しているが、住みやすさが良いと評価された率が令和2年度は67.6%、令和3年度は77.7%であり、10ポイント上がった。住みやすさの評価がすべて乳幼児予防接種をやったことと関連しているとは考えていないが、そのサービスも含めて、住みやす

すさの評価のポイントが上がる要因の1つになったと捉え、目標指数とした。

先程も説明したが現在の評価は、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」の中の評価で行っており、インフルエンザ予防接種の単独の事業評価というものは総合計画の中にはない。そのため今回は、インフルエンザの予防接種を受けた方の増減が住みやすさの数値の中に含まれていると推定し、評価は全体的な住みやすさということで行った。今回に関しては、単独評価がないことについて理解願いたい。

【草野委員】

この事業については単年度計画であり、次年度はないのか。

インフルエンザ予防接種は今後も続けるのか。

【総合政策課長】

今回は企業版ふるさと納税をインフルエンザの単体費用に充てたが、来年度以降についてはどこに充てるのか未定であり、また出てこないことも考えられる。今回は「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」という計画があり、それに関して現在の評価をするという指針があるため、単年度計画のみとなっている。

インフルエンザ予防接種については当課で続けていく。

【相浦委員】

補助を続けるということか。

【健康推進課長】

当課は事業を毎年行う。

【総合政策課長】

インフルエンザ予防接種の補助は行っていくが、企業版ふるさと納税をどこに充てるかは未定であるため、今後は分からない。

【渡邊副会長】

「乳幼児のインフルエンザ予防接種委託事業」について委員に評価結果の挙手を求めた。

→有効であった11票、有効とは言えない0票
「目標達成に有効であった」にて決する。

「総合戦略事業圏域応援ステーション穂積駅圏域拠点化構想推進事業」について

【渡邊副会長】

「総合戦略事業圏域応援ステーション穂積駅圏域拠点化構想推進事業」について担当課に説明を求めた。

【総合政策課】

資料 2 を用い実施した事業について説明を行った。

【渡邊副会長】

担当課の説明について、各委員に対し質問・意見を求めた。

【梶浦委員】

新規出店したところに対して、市からの継続的な応援はあるのか。その後の継続性はどうか。

【総合政策課】

新規出店をしたところに対して、特に市から継続していくにあたり補助をしていることはない。目標数値は、駅周辺が盛り上がることより、店舗が増えるというところの数値であるため、市が主体的に補助をすることはない。継続性について、令和 2 年度までに 6 店舗新規出店があったが、この中で 5 店舗は継続している。

【渡邊副会長】

乗降客数の減少はコロナが影響していると考えられるが、ほかに減少した要因は考えられるか。

【総合政策課】

基本的にはコロナが要因で通勤、通学者が減ったことに加え、出控えのため乗降客数が減ったと考えている。それ以外の要因は今のところ考えていない。

【松尾委員】

主な事業のところで、平成 29 年度の全体事業 1 千 3 7 2 万 8 千円という数字は、令和 3 年度の 2 千 1 2 2 万円、令和 4 年度の 1 千 4 5 0 万 6 千円などの数字とどのように連動しているのか。

【総合政策課長】

予算については基本的に国の地方創生交付金を活用しており、2 分の 1 は国から受け取るお金である。平成 29 年度から令和 3 年度まではその第 1 期であり、今の 2 千万近くの予算を活用し事業を展開してきた。その 5 年を終え、令和 4 年度から 6 年度までは、エキサイトという組織を市からの援助ではなく、3 年間で自立させるということで交付金を受け

	<p>取っている。その金額を積算すると、今の1千400万円程度であり、予算が減ったということである。</p> <p>【渡邊副会長】 「総合戦略事業圏域応援ステーション穂積駅圏域拠点化構想推進事業」について委員に評価結果の挙手を求めた。</p> <p>→有効であった10票、有効とは言えない1票 「目標達成に有効であった」にて決する。</p> <p>その他議事等 次回会議を令和4年8月30日（火）18時より総合センター第4会議室で実施することとした。</p> <p>閉 会</p>
<p>事務局 （担当課）</p>	<p>瑞穂市 企画部 総合政策課 TEL : 058-327-4128 FAX : 058-327-4103 e-mail : sougou@city.mizuho.lg.jp</p>